

教職員の学校評価の結果と考察（前期：R6年7月実施）

<アンケートの考察（5件法）>

☆ 平均が「4.5」以上の項目について

- 管理職や生徒指導主事を中心に朝の見回りを行ったり、日々、パトロールを行ったりといった積み重ねが児童の生活に根付いている。ただし、1件発生した交通事故を重く受け止め、全体指導や現地での登下校指導を定期的に行う必要がある。
- 高学年を中心に、体力づくりに取り組んでいる。教職員の協力体制もよい。
- 地域や保護者から信頼を得るためには、積極的な情報の公開が必要である。肖像権に配慮しつつ、いろいろな学年の活動を公開できるとよい。
- 地域の皆様の見守り活動や学校へのサポートには、頭が下がる。コミュニティスクールも含めて、地域の方々と良い関係を築き、共に丹原小を盛り上げていきたい。

★ 平均が「4.0」未満の項目

- 4月より校時表が変更になり、朝の会、朝の活動、1時間目という流れになった。内容も各学年の裁量により、弾力的な運用が可能となった。その学習効果について、評価と検証を行う必要がある。
- 児童自身に「分かろうとする、考えようとする、伸びようとする意識（主体性）」が必要だと考える。それらをどのようにすれば高められるかについて、研修と実践を続けていかなければならない。
- 差別や偏見を解決するために必要な力とは何か？「差別や偏見に気付く力」「気付いたら、解決の方法を考え、実行する力」「仲間を集める力」…いろいろな力を育てていく必要がある。
- 自分の思いを相手に伝わるように話す語彙力と適切な態度が求められている。それらを身に付けさせる取組を授業内外問わず行っていく必要がある。
- 学力面において、全国的にも言われているが、二極化しつつある。「聞く＋理解する」「考える・判断する＋よく分かるように表現する・伝える」といった一連の流れが身に付くと良い。そのための効果的な手立てについて研修を深めたい。

教職員の学校評価の結果（後期：R6年12月実施）

<アンケートの考察（5件法）>

☆ 平均が「4.5」以上の項目について

- タブレット端末を用いての学校生活アンケートが軌道に乗り、集計等の負担が軽減され、その分、児童にかかわる時間が増えたことが良い。また、担任の丁寧な聞き取りで、トラブルの早期発見につながっている。
- 地区担当の先生を中心に登校班の状況を把握していて、トラブルにも早期に対応できている。
- 毎月のJアラートを用いたシェイクアウトだけでなく、児童・教職員に事前周知なしの抜き打ち避難訓練を行った。その際、避難場所に集まらない児童の役割を高学年にしてもらい、教員が探しに戻るなど、実際の場面を想定した訓練を行った。
- えひめ IT スタジアムや、マラソン日本一周、体力アップカードなどの様々な取組が、運動意欲の高揚につながった。活発な高学年の姿を見て、下級生も刺激を受けていた。教職員の協力体制も良い。
- ホームページ・学校だよりによる情報公開ができています。今後も、いろいろな形で情報公開を大切にしたい。
- 地域安全ボランティアの方を中心に多くの方が登下校の見守りや、交差点での誘導をしてくださっている。マチコミメールが流れた際は、民生児童委員さんや保護者も多く出てきてくださる素晴らしい地域である。

★ 平均が「4.0」未満の項目

- 学習規律については、全体的に学級担任がしっかり指導している。
一方、朝の活動が十分にできていない。静かに学習に向かう姿勢づくりとしては、機能しているが、どこか集中できていないこともあるようだ。次年度に向けて、活動内容を考えていきたい。
- なかよし遊び、集会活動、道徳科などの実践を通して、児童の人権意識が高まり、差別や偏見をなくしていこうという気持ちを感じる。その気持ちを大きく育て、いかに実践へとつなげさせるかが、本当の道徳教育であり、教師の手腕にかかっていると感じる。
- 言葉について、深く学ぶ必要がある。言葉の意味や行間を読むこと、言葉が相手に与える影響などを、子どもたちとともに考えていきたい。来年度の国語の研究が生かされるとよい。
- 2学期の元気アップ大作戦で、運動、早起き、朝ごはんはどの学年もできている。しかし、早寝、挨拶ができていない。家庭による協力が必要であるので、学校からの啓発は引き続きしていく必要がある。
- 個人差が大きいのが課題である。聞く態度は悪くないが、話の内容をどれだけ理解しているかが重要。理解していないと、表現も難しいと感じる。いつでも、どこでも、誰に対しても凡事徹底ができるように継続的で粘り強い指導が必要である。